2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　　甲賀市　　（都道府県：滋賀県）

1. 当該地域の情報　（2020年 3月現在）

地域の課題	甲賀市は、滋賀県内でも有数のものづくり企業の集積地であり、市全体では2020年2月末現在、総人口90,641人に対し、外国人人口が3,743人と、その比率は約4.1%で現在も増加傾向にある。総人口の減少が進む中で定住化傾向にある外国人住民に1人の市民として地域で活躍いただくことは重要で、そのためには日本語によるコミュニケーションが必要であり、外国人住民には「やさしいにほんご」が理解できるレベルまで日本語を学習することが求められる。現在、水口地域では日本語教室を開講しているが、信楽地域の外国人住民にとっては水口まで行くことが遠方で且つ公共交通網が不便であること、自家用車があっても毎週開催の教室に通い続けることが困難であること、また限られたボランティアにより実施されていることなどから信楽地域の在住外国人が近傍で積極的に参加できる教室、また継続的な運営に関わる人材の確保が課題である。
在住外国人数 外国人比率	人口90,641人　外国人3,743人　4.13% （信楽地域　人口11,255人　外国人272人　2.4%）R2.2.29
在留外国人の状況	【主な国籍と人数】①ブラジル(1.485人)　②ベトナム(547人)　③中国(407人)　④フィリピン(363人)　⑤ペルー(341人) ⑥韓国(208人)　⑦インドネシア(113人)　⑧ベネズエラ(47人)　⑨ドミニカ共和国(34人)　⑩ネパール(23人) 【在留資格】①永住者　②定住者　③技能実習2号ロ　④技能実習1号ロ　⑤技術・人文知識・国際業務　⑥特別永住者 ⑦日本人の配偶者等　⑧家族滞在　⑨技能　⑩永住者の配偶者等 【滞在年数・在留期間などの状況】 定住化が進んでいる。技能実習が増加傾向にある。
在住外国人の日本語教育の現状	甲賀市内の水口町にて、国際交流協会と連携し、外国人が日本語を学習し、地域と繋がり安心安全に生活するための支援事業として月曜日と土曜日に日本語学習支援ボランティアグループを中心に日本語教室を開催した。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	信楽地域に在住する外国人住民に対して、日本で生活していく上で必要となる日本語学習の機会を提供し、コミュニケーション不足によるトラブルや孤立、悩みの解消につなげ、地域の中で安心して暮らせる環境設備を行う。
事業の概要	・市担当課、市国際交流協会、信楽地域関係者、アドバイザーによる信楽地域日本語教室設置検討協議会を開催。 ・信楽地域での交流会（おしゃべりカフェ）や意見交換会を開催、外国人住民と地域の交流促進をはかる。 ・日本語ボランティア養成講座を実施し、信楽地域日本語教室で活躍いただく新規ボランティアの確保及び現ボランティアのスキルアップを行う。 ・2020年3月13日に信楽地域日本語教室を試行する。
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月
前年度の実績 （2年目以降の団体のみ記載）	・信楽地域日本語教室設置検討協議会を立ち上げ、地域の外国人住民が希望する教室の形や内容、運営方法などについて、関係者や今後関わってくださるキーパーソンと協議を重ねた。 ・市担当課、市国際交流協会、アドバイザーと共に教室を開催する信楽地域への視察、外国人住民が多く集まる市内の外国食品を扱うスーパーへの視察を行った。 ・信楽地域での交流会（おしゃべりカフェ）を2回開催し、外国人従業員を雇用する企業及び外国人住民へ日本語に関する聞き取りを行うと共に地域住民との交流促進をはかった。

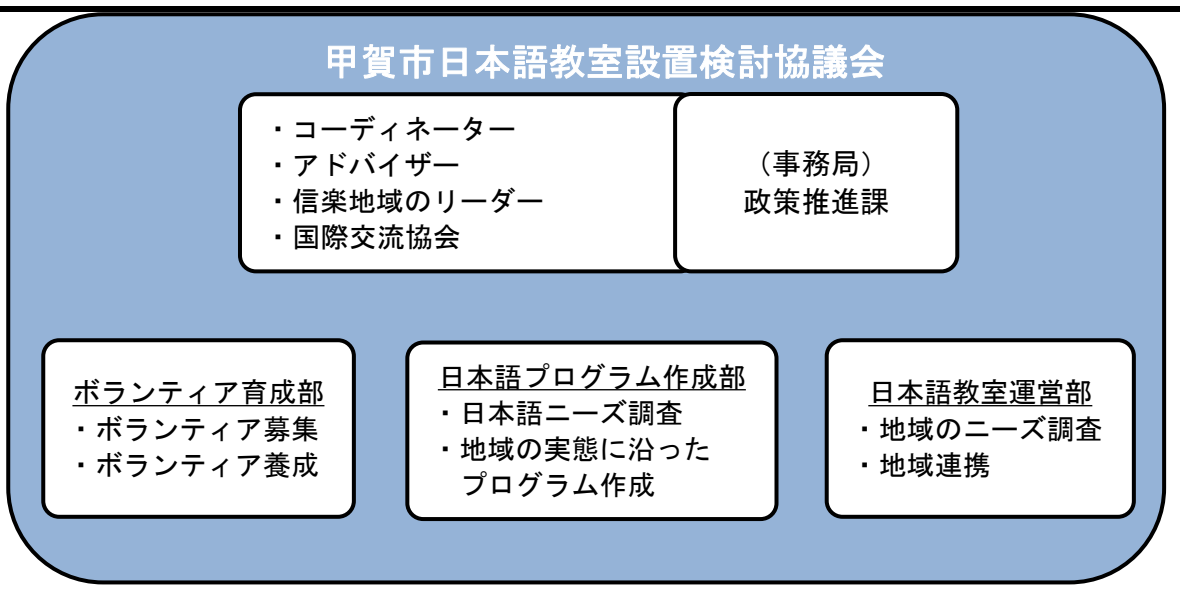
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	高野　由美	甲賀市国際交流協会	理事	教室の設置・運営等へのアドバイス
	浜田　麻里	京都教育大学	教授	日本語教育カリキュラム作成等

担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田　泉	にんじんランゲージスクール	校長	(継続)・新規（2年目）
	犬飼　康弘	（公財）ひろしま国際センター	日本語常勤講師	(継続)・新規（2年目）
	藤井　美香	（公財）横浜市国際交流協会	シニアコーディネーター	(継続)・新規（2年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

（1）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

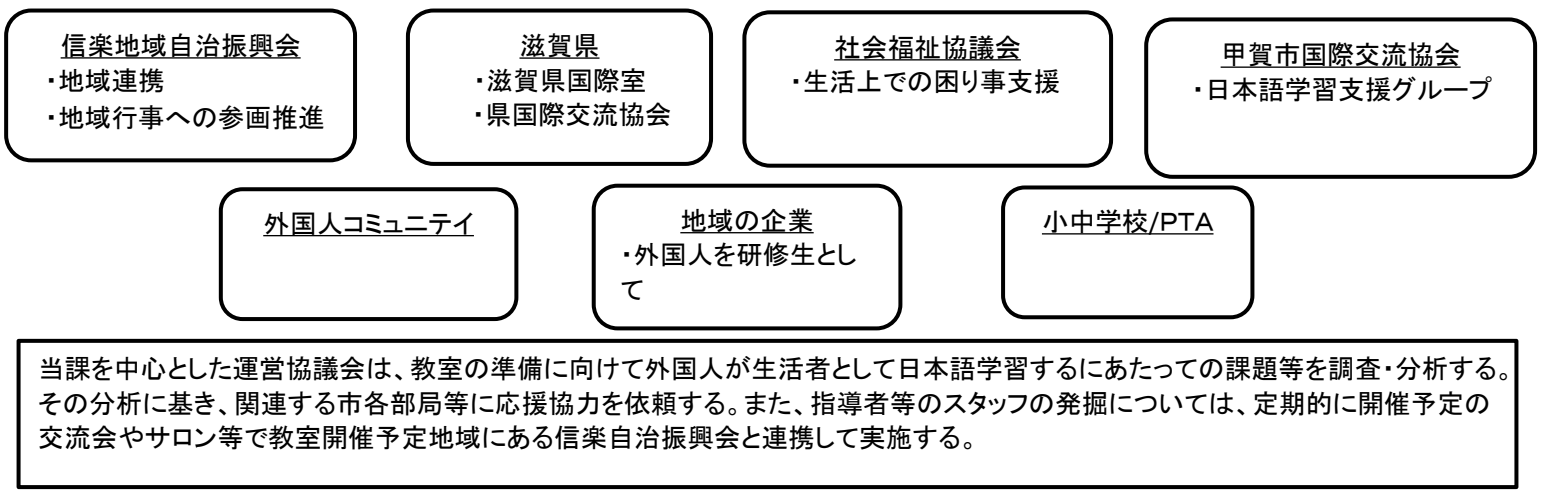
検討体制



所属（担当課）	担当者名	職名
甲賀市役所　政策推進課	髙市　素宏	係長
甲賀市役所　政策推進課	加賀　愛	主事
甲賀市役所　政策推進課	柏村　敦美	多文化共生推進員
甲賀市国際交流協会	大河原　佳子	事務局長
信楽地域のリーダー	上甲　典江	

（2）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
甲賀市国際交流協会	日本語支援グループ	代表	高野　由美
甲賀市国際交流協会	日本語支援グループ	代表	丸山　真澄
甲賀市国際交流協会	日本語教室「にんじゃ」	代表	門坂　尚子
甲賀市国際交流協会	日本語教室「虹」	代表	奥村　たき江
信楽地域　小中学校/PTA			大谷　五十二

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月			
2019年 5月			
2019年 6月	・ネットワーク会議	・ネットワーク会議出席	
2019年 7月	・外国人集住地域の視察 ・外国人従業員の日本語学習について聞き取り ・日本語教室設置検討協議会	・日本語教室設置検討協議会出席 ・外国人従業員への聞き取り	・教室の方向性について助言
2019年 8月	・信楽地域の外国人住民の基礎データ収集 ・おしゃべりカフェ事前説明会	・おしゃべりカフェ事前説明会出席	
2019年 9月	・おしゃべりカフェ開催 ・外国人住民へ日本語教室に関する聞き取り ・第2回おしゃべりカフェ事前会議	・おしゃべりカフェ参加 ・外国人住民への聞き取り ・第2回おしゃべりカフェ事前会議出席	
2019年 10月	・第2回おしゃべりカフェ中間報告会議 ・第2回おしゃべりカフェ開催 ・外国人住民へ日本語教室に関する聞き取り ・「地域日本語教育スタートアッププログラム情報交換会」への出席	・第2回おしゃべりカフェ中間報告会議出席 ・第2回おしゃべりカフェ参加 ・外国人住民への聞き取り	
2019年 11月			
2019年 12月	・信楽地域日本語教室検討会 ・日本語ボランティア養成講座についての会議	・信楽地域日本語教室検討会出席 ・日本語ボランティア養成講座についての会議出席	
2020年 1月	・信楽地域日本語教室のキーパーソンとの協議		
2020年 2月	・信楽地域日本語教室検討会	・信楽地域日本語教室検討会出席	
2020年 3月	・13日に教室試行予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためR2年度4月に延期を決定した。		

（2）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	信楽日本語教室（仮）　**※3月13日（金）に試行予定だったが、新型コロナウィルスの影響を受け4月に延期**		
外国人参加者について	[国籍] [属性]技能実習生、日本人の配偶者等が主な対象	参加者数 （内 外国人数）	受講者　名 支援者　名 （日本語指導者　名、 サポーター　名）
開催時間数	総時間　2　時間	内訳　2　時間　×　1　回	
目標	学習者が日常生活で困っていることを解決し、わからない日本語が聞ける場所づくり。 外国人住民と日本人の顔の見える関係づくり。		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	（延期） 2020年3月13日（金） 19:00～21:00	2	信楽開発センター		・13日に教室試行予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため R2年度4月に延期を決定した。		日本語ボランティア 名
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

【主な活動】

信楽地域の外国人従業員を雇用する企業への視察

第1回おしゃべりカフェ
日本語教室に関する聞き取り

第2回おしゃべりカフェ
日本語教室に関する聞き取りの後、地域との交流イベントとしてBBQを開催

（3）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
国際交流フェスタ2019	2019年12月8日 11:00～16:00	甲賀市国際交流協会主催の国際交流フェスタ2019に参加。外国人住民がどのようにして日本での生活情報などを収集しているのか、フェスタに訪れた外国人約100人にアンケートを行った。また、このアンケート結果を甲賀市多文化共生推進計画に反映した。
多言語情報避難訓練	2020年2月22日 10:00～16:00	災害時の外国人支援のための多言語情報センター運営等を含めた実践形式の訓練及び外国人向け防災講座を実施。また、近畿地域国際化協会連絡協議会で取り組んでいる災害時広域応援体制について検討した。
日本語ボランティア養成講座	2020年2月～3月 （1回2時間、全6回）	甲賀市や甲賀市国際交流協会が行う外国人のための日本語教室で活動する日本語ボランティアの裾野を広げるとともに、活動中のボランティアが困っていることや、わからないことを解決するためのヒントを得るための講座への参加。 ※第3～6回は新型コロナウィルスの影響を受け延期
国際理解推進事業 グローバルセミナー2019 「外国につながる子どもたちとともに拓く地域の未来」	2020年2月23日 13:30～16:00	甲賀市国際交流協会が主催となり、市内小中学校在籍の外国につながる児童・生徒への学習支援状況の現状報告をパネルディスカッション形式で開催した。多文化共生施策等についての話題提供として、パネルディスカッションに参加した。

【主な活動】

国際交流フェスタ2019
外国人住民へ生活情報収集に関するアンケートを実施

多言語情報避難訓練

国際理解推進事業
グローバルセミナー2019

5. 今年度事業全体について

進捗状況	日本語教室の設置に向けた検討会、協議会、また、地域のニーズを把握するためのおしゃべりカフェについては概ね計画通り進めることができた。今年度の取組内容に挙げていた母国料理教室については、第2回おしゃべりカフェの中でお互いの食文化について日本語で紹介することができたので、当初の計画を変更した。就学時期に頻繁に耳にする日本語単語（例：「うわぐつ」「したばき」）について学べる場として説明会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止することとした。教室設置検討会及び当該地域のキーパーソンとの意見交換については、当初の予定よりも多く実施することができ、試行日及び4月以降の教室開催日を決定するまでに至った。
成果	・日本語教室設置検討協議会を立ち上げ、当該地域で活躍いただける人材の確保を進めた。 ・当該地域で、外国人従業員を雇用する企業への視察及び日本語学習に関する聞き取りを行った。 ・交流会（おしゃべりカフェ）を実施し、外国人参加者へ日本語教室に関する聞き取りを行った。生活していくために日本語を学ぶ必要性があるとの回答は多い中、現在市内他所で開催中の日本語教室へは、距離があり時間が合わないとの意見も多く信楽地域での開催を希望する声が明らかとなった。
地域の関係者との連携による効果	・キーパーソンとなる方と協議を重ね、信楽地域の外国人住民の現状を知ることができた。 ・外国人従業員を雇用する企業へ、日本語学習に関する聞き取り及び交流会（おしゃべりカフェ）の案内等の協力を得られた。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査（6H） ②体制整備のための調整（17H） ③人材育成のための調整（3H） ④日本語教室開設及び運営のための調整（17H） ⑤教材作成に向けた調整（0H） ⑥その他（0H）
アドバイザーの主な助言	・行政と国際交流協会の日本語教育における役割分担を明確にする。 ・システムコーディネーターとプログラムコーディネーターをおき、行政はその人たちをバックアップしていくようにする。 ・当該地域のキーパーソンは、日本人に拘らずに一緒に取り組める人であれば外国人でもよいのではないか。 ・養成講座を開催するのであれば、今後教室で教えることになるというゴールを念頭に置き、多文化全般、日本語の教え方を一緒にやっていこうというマインド的な考え方で行うのが良い。 ・「どの外国人のニーズ」を「どのような形の教室」で解決し、それがどのように地域にプラスになるか、市担当課が先導で打ち出して現在活躍しているプレーヤーにどのように担ってもうらうかを説明するようにする。
今後の課題	・地域のニーズに沿った教室運営、教室内容を確立する。 ・運営体制を整理し、プログラムコーディネーターの役割（教室内容、教室主催イベントの企画・開催について等）と、システムコーディネーターの役割（教室の運営事務、事業費確保、日本語ボランティアの確保・養成について等）の棲み分けを行う。 ・教室試行後は、行政主導ではなく信楽地域の日本語ボランティアが中心となり安定的に運営できるよう、教室の運営体制や事業の予算化等について検討会で協議し、方向性を決定する。
今後の予定	・市主催の日本語ボランティア養成講座を開催する。新規日本語ボランティアの確保及び現在活躍いただいているボランティアのスキルアップを行う。 ・市広報誌やホームページ、フェイスブック等を活用して参加を呼び掛ける。情報発信を充実させる。 ・学習者が継続して日本語学習ができるよう、地域の企業と連携し情報交換を行う。

本件担当　：　甲賀市役所　政策推進課